

## 登壇者プロフィール

- ・阿部治正（あべ はるまさ）  
千葉県流山市の市議会議員、放射能から子どもを守ろう関東ネットの会員。放射能に汚染された千葉県北西部を中心に、関東ホットスポットの市民の放射能防護、とりわけ子どもの健康診断と健康調査を求めて活動。
- ・太田茂樹（おたしげき）  
子どもたちを放射能から守るみやぎネットワーク代表。宮城県丸森町在。妻と子供が事故直後から同年4月上旬まで避難生活を送る。
- ・河崎健一郎（かわさき けんいちろう）  
弁護士・福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク(SAFLAN)共同代表共編著「避難する権利、それぞれの選択」「3・11 大震災 暮らしの再生と法律家の仕事」等。
- ・木田光一（きだ こういち）  
福島県医師会副会長、秋田大学医学部卒業後、同大学第一外科入局、いわき湯本病院外科医長、小坂鉦山病院副院長を経て木田医院開業。平成19年いわき市医師会会長、平成20年より福島県医師会副会長。福島県いわき市在住。
- ・栗田暢之（くりた のぶゆき）  
NPO 法人レスキューストックヤード代表理事。東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話人ほか、愛知県被災者支援センター長も兼務。阪神大震災を契機に活動を開始。名古屋市在住。
- ・小松恒俊（こまつ つねとし）  
南相馬市ひばり地区復旧・復興対策協議会長。南相馬市原町区在住(旧緊急時避難準備区域)。平成23年3月13日、南相馬市原町区から郡山市へ避難し、4月22日帰還する。
- ・佐藤和良（さとう かずよし）  
いわき市議会議員・原発事故子ども・被災者支援法推進自治体議員連盟共同代表、福島県いわき市在住。
- ・篠原恭子（しのはら きょうこ）  
原発事故子ども・被災者支援法宮城フォーラム実行委員会。仙台市在住。
- ・高野光二（たかの みつじ）  
福島県議会議員、ふくしま未来ネットワーク会派会長。自宅が南相馬市小高区(警戒区域内)にあり、現在、妻と二人で南相馬市原町区で避難生活を送る。
- ・千葉由美（ちば ゆみ）  
いわきの初期被曝を追及するママの会共同代表。福島県いわき市在住。
- ・中手聖一（なかくて せいいち）  
原発事故子ども・被災者支援法市民会議代表世話人。福島市で被災。地域の障がい者の避難支援等に当たる。子どもを放射能から守る市民団体設立、代表を務めた。2012年7月から札幌に移住。
- ・野々山理恵子（ののやま りえこ）  
生活協同組合パルシステム東京理事長。パルシステム運動委員会委員長としてパルシステム全体の運動を牽引している。国分寺市在住。
- ・長谷川克己（はせがわ かつみ）  
事故時は郡山市に在住。5ヵ月後、静岡県富士宮市に当時5歳の長男と妊娠中の妻を連れて避難。避難後、静岡にて起業、現在、小規模老人デイサービスを運営中。傍ら、避難当時者として被害者の権利、及び救済を訴える。
- ・蛇石郁子（へびいし いくこ）  
福島県郡山市在住。郡山市議会議員、緑ふくしま事務局長。
- ・的場美友紀（まとば みゆき）  
日本弁護士連合会・弁護士。日弁連東日本大震災・原子力発電所事故等対策本部消滅時効問題対策チーム委員。
- ・満田夏花（みつた かな）  
国際環境 FoE Japan 理事、一橋大学非常勤講師。3.11 原発震災以降は、20mSv 基準撤回、避難の権利確立のための運動、脱原発の実現に向けた各種活動に従事。